

二 簡易保險健康相談所ノ職員及傭人ニ關スル事項
三 簡易保險健康相談所ニ屬スル土地、建物、工作物及電話ニ關スル事項

第三十條第一項中「第一課及同第二課」ヲ「第一課、同第二課及同第三課」ニ改ム

別表ヲ左ノ如ク改ム

別表 課 名 受 持 區 域

東京第一課	東京府	（養老保險契約ニ關スル事務ニ付テハ第二十四條第一號乃至第五號ニ據テザル事務ヲ除ク）
東京第二課	東京府	（東京第一課ノ主管ニ）
東京第三課	新潟縣	千葉縣、茨城縣、山梨縣
東京第四課	埼玉縣	群馬縣、栃木縣、靜岡縣
名古屋第一課	愛知縣	福井縣、石川縣、南洋廳管内、朝鮮、外國但シ滿洲國及中華民國ヲ除ク
名古屋第二課	三重縣	岐阜縣、長野縣、富山縣
大阪第一課	大阪府	京都府
大阪第二課	兵庫縣	奈良縣、滋賀縣、和歌山縣、德島縣、高知縣
廣島	廣島縣	鳥取縣、島根縣、岡山縣、山口縣、香川縣、愛媛縣
第一課	熊本縣	福岡縣
第二課	長崎縣	大分縣、宮崎縣、鹿兒島縣
第三課	佐賀縣	沖繩縣、臺灣、關東州、滿洲國、中華民國
第一課	宮城縣	青森縣、秋田縣、樺太
第二課	福島縣	岩手縣、山形縣
第三課	北海道	

五日付官報を以て左記の如く公布を見た。

厚生科學研究所官制中改正ノ件

（昭和十六年十月三十日 勅令第九百三十八號）

厚生科學研究所官制中左ノ通改正ス

第二條第一項中「教授專任七人」ヲ「教授專任九人」ニ、

「助教專任四人」ヲ「助教專任五人」ニ、「助手」專任四十六人」ヲ「助手」專任四十九人」ニ、「書記專任九人」ヲ「書記專任十人」ニ改ム

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

熱帶醫學研究所官制中改正ノ件

（昭和十六年十一月十五日 勅令第九百六十八號）

熱帶醫學研究所官制中左ノ通改正ス

第三條中「技手專任二十五人」ヲ「技手專任三十三人」ニ改ム

第九條第二項中「八人」ヲ「十一人」ニ改ム

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

昭和十四年四月二十日勅令第二百七十八號熱帶醫學研究所官制抄録

第九條 臺北帝國大學教授ニシテ所長又ハ所員ニ補セラレタル者ニハ講座ヲ擔任セシメザルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ講座ヲ擔任セザル教授及所員ニ補セラレ専ラ所務ニ從事スル助教ハ通ジテ八人

トシ臺北帝國大學ノ定員外トス

國民勤勞報國協力令の公布

國家總動員法に基ク國民勤勞報國に關する勅令案要綱については本誌前々號本欄に既報の如くであるが、

同令は昭和十六年十一月二十二日付官報を以て公布を見、昭和十六年十二月一日より施行せらるることとなつた。之を掲ぐれば次の如くである。

國民勤勞報國協力令（昭和十六年十一月二十二日 勅令第九百九十五號）

第一條 國家總動員法（昭和十三年勅令第三百十七號）ニ於テ依ル場合ヲ含ム）第五條ノ規定ニ基ク帝國國民ノ勤勞報國ヲ目的トスル協力ニシテ隊組織ニ依ルモノ（以下國民勤勞報國隊ニ依ル協力ト稱ス）ニ關シテハ本令ノ定ムル所ニ依ル

第二條 國民勤勞報國隊ニ依ル協力ハ國、地方公共團體又ハ厚生大臣若ハ地方長官ノ指定スル者ノ行フ命令ヲ以テ定ムル總動員業務ニ付之ヲ爲サシムルモノトス

第三條 國民勤勞報國隊ニ依ル協力ヲ爲サシムル者ハ帝國國民ニシテ年齢十四年以上四十年未満ノ男子及年齢十四年以上二十五年未満ノ女子（妻及届出ヲ爲サザルモ事實上婚姻關係ト同様ノ事情ニ在ル女子ヲ除ク）トス

前項該當者以外ノ者ハ志願ニ依リ國民勤勞報國隊ニ依ル協力ヲ爲サシムルコトヲ得

第六條ノ規定ニ依リ學校長ニ對シ必要ナル措置ヲ命ズル場合ノ學校在學者ノ國民勤勞報國隊ニ依ル協力ニ關シテハ前二項ノ規定ニ拘ラズ命令ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得

厚生科學研究所及び熱帶醫學研究所官制中改正の件公布

人口問題研究所と並んで人口問題研究上關係の尠くない厚生科學研究所及び熱帶醫學研究所官制中一部改正の件はそれぞれ昭和十六年十一月一日及び十一月十

第四條 國民勤勞報國隊ニ依ル協力ヲ爲サシムル期間

ハ命令ノ定ムル所ニ依リ一年ニ付三十日以内トス

前項ノ期間ハ特別ノ必要アル場合又ハ本人ノ同意アル場合ニ於テハ三十日ヲ超ユルコトヲ得

第五條 國民勤勞報國隊ニ依ル協力ヲ受ケントスル者

ハ命令ノ定ムル所ニ依リ厚生大臣又ハ地方長官ニ之ヲ請求又ハ申請スベシ

第六條 厚生大臣又ハ地方長官ハ前條ノ規定ニ依ル請

求又ハ申請アリタル場合ニ於テ國民勤勞報國隊ニ依

ル協力ヲ爲サシムル必要アリト認ムルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ市町村長(市町村長ニ准ズベキモノヲ含ム以下同ジ)其ノ他ノ團體ノ長又ハ學校長ニ對シ協力ヲ受クベキ者、作業ノ種類、協力ヲ爲スベキ場所及期間竝ニ所要人員數其ノ他必要ナル事項ヲ指定シテ國民勤勞報國隊ニ依ル協力ニ關シ必要ナル措置ヲ命ズルモノトス

第七條 前條ノ措置ヲ命ゼラレタル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ國民勤勞報國隊ニ依ル協力ヲ爲スベキ者ヲ

選定シ其ノ選定アリタル旨ヲ本人ニ通知シ協力ニ關シ必要ナル事項ヲ指示スベシ

前項ノ選定ヲ爲スニ當リテハ本人ノ年齢、職業、身體ノ状態、家庭ノ状況、希望等ヲ斟酌スベシ

第八條 前條第一項ノ通知ヲ受ケタル者ハ同項ノ規定ニ依ル指示ニ從ヒ國民勤勞報國隊ニ依ル協力ヲ爲スベシ

第九條 國民勤勞報國隊ニ依ル協力ニ要スル經費ハ命令ノ定ムル所ニ依リ特別ノ事情アル場合ヲ除クノ外其ノ協力ヲ受クル者之ヲ負擔スルモノトス

第十條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ國民勤勞報國隊

ニ依ル協力ヲ爲サシメザルモノトス

一 陸海軍軍人ニシテ現役中ノモノ(未ダ入營セザル者ヲ除ク)及召集中ノモノ(召集中ノ身分取扱ヲ受クル者ヲ含ム)

二 陸海軍學生生徒(海軍豫備練習生及海軍豫備補習生ヲ含ム)

三 朝鮮總督府陸軍兵志願者訓練所生徒

四 陸海軍軍屬

五 現ニ徵用中ノ者

六 陸軍大臣若ハ海軍大臣ノ所管ニ屬スル官衙(部隊及學校ヲ含ム)又ハ厚生大臣ノ指定スル工場事業場其ノ他ノ場所ニ於テ軍事上必要ナル總動員業務ニ従事スル者

七 法令ニ依リ拘禁中ノ者

第十一條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ志願ニ依ル場合ヲ除クノ外國民勤勞報國隊ニ依ル協力ヲ爲サシメザルモノトス

一 現ニ厚生大臣ノ指定スル總動員業務ニ従事スル者

二 其ノ他厚生大臣ノ指定スル者

第十二條 厚生大臣又ハ地方長官ハ國民勤勞報國隊ニ依ル協力ニ關シ市町村長其ノ他ノ團體ノ長若ハ學校長又ハ國民勤勞報國隊ニ依ル協力ヲ爲ス者若ハ其ノ協力ヲ受クル者ヲ監督ス

第十三條 厚生大臣又ハ地方長官ハ厚生大臣ノ定ムル所ニ依リ其ノ國民勤勞報國隊ニ依ル協力ニ關スル事務ノ一部ヲ國民職業指導所長ヲシテ分掌セシムルコトヲ得

第十四條 第五條、第六條及前二條中厚生大臣トアル

ハ第六條ノ規定ニ依リ學校長ニ對シ必要ナル措置ヲ命ズル場合ノ學校在學者ノ國民勤勞報國隊ニ依ル協力ニ關シテハ文部大臣及厚生大臣トス

第十五條 本令ニ於テ學校ト稱スルハ第十條第六號ノ場合ヲ除クノ外文部大臣ノ所轄ニ屬スル學校ヲ謂ヒ學校長ト稱スルハ文部大臣ノ所轄ニ屬スル學校ノ長ヲ謂フ

第十六條 前二條ノ規定ハ朝鮮、臺灣、樺太及南洋群島ニハ之ヲ適用セズ

本令中厚生大臣トアルハ朝鮮ニ在リテハ朝鮮總督、臺灣ニ在リテハ臺灣總督、樺太ニ在リテハ樺太廳長、南洋群島ニ在リテハ南洋廳長官トシ地方長官トアルハ朝鮮ニ在リテハ道知事、臺灣ニ在リテハ州知事又ハ廳長、樺太ニ在リテハ樺太廳長官、南洋群島ニ在リテハ南洋廳長官トシ市町村長トアルハ朝鮮ニ在リテハ府尹又ハ邑面長、臺灣ニ在リテハ市長又ハ郡守(澎湖廳ニ在リテハ廳長)、南洋群島ニ在リテハ南洋廳支廳長トシ國民職業指導所長トアルハ朝鮮ニ在リテハ府尹、郡守又ハ島司、臺灣ニ在リテハ市長又ハ郡守(澎湖廳ニ在リテハ廳長)、樺太ニ在リテハ樺太廳支廳長、南洋群島ニ在リテハ南洋廳支廳長トス

第十七條 本令ニ規定スルモノノ外國民勤勞報國隊ニ依ル協力ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

附則

本令ハ昭和十六年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

昭和十三年四月一日公布法律第五十五號國家總動員法

抄錄

第五條 政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルト

抄錄

抄錄

抄錄

抄錄

抄錄

抄錄

抄錄

抄錄

抄錄

キハ勅令ノ定ムル所ニ依リ帝國臣民及帝國法人其ノ他ノ團體ヲシテ國、地方公共團體又ハ政府ノ指定スル者ノ行フ總動員業務ニ付協力セシムルコトヲ得

勞働者災害扶助責任保險法施行令中改正の件公布

勞働者災害扶助責任保險法施行令中改正の件については昭和十六年十一月五日付官報を以て左の如く公布を見た。

勞働者災害扶助責任保險法施行令

中改正ノ件 (昭和十六年十一月四日 勅令第九百五十三號)

勞働者災害扶助責任保險法施行令中左ノ通改正ス第十七條但書ヲ左ノ如ク改ム

但シ療養費ニ對スル保險金ノ支拂ニ關スル事項ハ工事ノ主タル事務所ノ所在地(扶助開始後ニ於テ扶助ヲ受クル者ガ工事ノ主タル事務所ノ所在スル道府縣以外ノ道府縣ニ移轉シタルトキハ其ノ居住地)ヲ管轄スル地方長官(東京府ニ在リテハ警視總監)之ヲ掌ル第三條第三項第四項若ハ第四條第一項ノ承認者ハ指示又ハ第十二條若ハ前二條ノ規定ニ依リ認定ニ付亦同ジ

附則

本令ハ昭和十六年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

昭和六年八月二十日勅令第二百七十七號勞働者災害扶助責任保險法施行令抄録

第十七條 勞働者災害扶助責任保險ハ保險院長官ニ於テ之ヲ掌ル但シ第三條第三項第四項又ハ第四條第一項ノ承認又ハ指示ハ工事ノ主タル事務所ノ所在地(扶助開始後ニ於テ扶助ヲ受クル者ガ工事ノ主タル事務所ノ所在スル道府縣以外ノ道府縣ニ移轉シタルトキハ其ノ居住地)ヲ管轄スル地方長官(東京府ニ在リテハ警視總監)之ヲ爲ス

學校卒業者使用制限令中改正の件公布

昭和十三年八月二十四日公布の學校卒業者使用制限令中一部改正に關する勅令は昭和十六年十一月二十二日付官報を以て左の如く公布を見た。

學校卒業者使用制限令中改正ノ件

(昭和十六年十二月二十一日 勅令第九百九十六號)

學校卒業者使用制限令中左ノ通改正ス
第二條ノ二 厚生大臣卒業者ノ使用制限上特ニ必要アリト認ムルトキハ前條ノ規定ニ依リ認可シタル員數ヲ減少シ又ハ同條ノ認可ヲ取消スコトヲ得
第三條中「前條」ヲ「第二條」ニ改ム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

昭和十三年八月二十日勅令第五百九十九號學校卒業者使用制限令抄録

第二條 卒業者ヲ雇傭契約ニ基キ使用セントスル者

ハ命令ノ定ムル所ニ依リ學校ノ程度及學科別ニ各年ノ卒業者ノ使用員數ニ付厚生大臣ノ認可ヲ受クベシ
第三條 厚生大臣前條ノ認可ノ申請ニ付不正又ハ虚偽ノ事實アリト認ムルトキハ認可シタル員數ヲ減少シ又ハ認可ヲ取消スコトヲ得

大學學部等の在學又は修業年限の臨時短縮に關する勅令竝に之に伴ふ諸關係法令の公布

臨戰態勢下大學その他高等諸學校の學生生徒をしてその卒業期を繰り上げしめ速かに國家の要務に應ぜしむることを目的とし、大學學部等の在學年限又は修業年限の臨時短縮に關する勅令は昭和十六年十月十六日付官報號外を以て公布せられたが、之に附帶する陸軍及び文部省令竝に兵役關係に關する諸法令を再録すれば以下の如くで、大學その他の高等諸學校の卒業期は今昭和十六年度に於ては三月、明昭和十七年度に於ては六月、又中等諸學校に於ては昭和十六、七兩年度に於て各三月短縮せらるることとなつた。

大學學部等ノ在學年限又ハ修業年限ノ臨時短縮ニ關スル勅令

(昭和十六年十月十六日 勅令第九百二十四號)

第一條 大學令第十條、第十一條、第十三條第一項若ハ第十六條、高等學校令第七條第一項、專門學校令第六條若ハ第八條第二項又ハ實業學校令第二條ノ第二項ノ規定ニ依リ大學學部ノ在學年限又ハ大學學部、高等學校高等科、專門學校若ハ實業專門學校